

第 178 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ：<http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

令和 2 年 12 月

日時：2020 年 12 月 11 日(金) 14:45-16:30 場所：横浜市青少年育成センター 第 1 研修室

◆ 主催：防災塾・だるま 総括運営：鷲山龍太郎、司会：田中喜世美、記録：田中 晃

◆ 参加者 26 名：会場参加 21 名（会員 18 名+ 一般 3 名）、Zoom 参加 5 名（会員 5 名+ 一般 0）

演題：「感染症対策における新型コロナウイルス感染症の特徴と課題」

講師：大久保一郎氏 横浜市衛生研究所長・医学博士・筑波大学名誉教授



大久保一郎氏

荏本塾長・池田副塾長挨拶

大久保講師には、2020 年 2 月新型コロナウイルス感染症の第 1 波感染爆発寸前に勉強会をお願いしました。今回も感染第 3 波の厳しい状況にも拘わらず講演を受諾いただきました。貴重な知見を、皆さんの日常活動に活かしてほしい。



講演要旨

2 月講演時には未知の部分が多かったが、最近では 80% ぐらい明らかになっている。厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症に関する現在の状況とこれまでに得られた科学的知見について」(10 月 29 日) をベースに、最新情報を加えた個人的な見解を入れて説明。

- ◆ 横浜では 2 月 14 日に初めて感染者が出て、現在 1 日 100 人以上で悲慘的な状況。
世界：11 月 20 日時点で累計感染者数 61 百万人、死者 143 万人。アメリカが多く、アジアが少ない。
- ◆ 国内では、第 1 波は緊急事態宣言で自粛、第 2 波は拡大を抑え、第 3 波は 11 月 29 日まで 14.7 万人が感染、死者は 2125 人。重症化率は約 1.6% (60 歳以上は 8.5%)、死亡は約 1% (同 5.7%)。高齢者や生活習慣病の方は重症化しやすい。また無症状からも感染が起こるので対応が難しい。
- ◆ 個別感染は主に飛沫感染と接触感染、患者と濃厚接触した場合の感染は約 5%、家庭内では 10~40%、一緒の食事では約 7%、買い物(すれ違い)では 0.6%と報告。
- ◆ 経過は、発症後 1 週間程度では軽症のまま 8 割が治る。呼吸困難、咳、痰の症状では 7 日~10 日、肺炎症状では入院、このうち 5% が集中治療室。他人への感染は発症の 2 日前から発症後 7~10 日間程度で、感染者 5 人のうち 4 人は無感染、1 人が多数(10 人以上の場合も)に感染させる。
- ◆ 各種検査と現状：①PCR 検査(遺伝子を検出)。②検査は RNA 抽出後 2・3 時間要す。③感染力がなくても陽性となることがある。④1 つの検体を 2 つに分け、結果が異なると検査をやり直すことがある。
 - ・抗原検査：ウイルスのたんぱく質を検出する検査。定量と定性(簡易キット)がある。定性は定量より精度が落ち、無症状者には適用がなく、唾液も使用できない。
 - ・抗体検査：血液中の抗ウイルス抗体を検出する。過去に感染したか判定する。
- ◆ ワクチンは発症を 95% 抑える報告があるが、検証数が十分ではなく特に重大な副反応は評価中。
- ◆ 感染症対策は社会的影響も考え、人権にも配慮が必要。感染者の就業制限や隔離入院、医療の負担や検査の限界、職員や支援者への影響、小児や高齢者の虐待等各方面で対応が迫られている。検査を一般住民全員に行くと偽陽性も多く発生することに留意。
- ◆ 3 蜜の感染リスクが高まる 5 つの場面「飲食を伴う懇親会等」「多人数や長時間におよぶ飲食」「マスクなしの会話」「狭い空間での共同生活」などの回避を徹底してほしい。

Q&A ・自己防御策として、自己免疫力が重要と考えるが：

A ウイルス疾患は自己免疫で治すことが大切(睡眠・栄養・運動・ストレス解消・感染防御ケア)

・感染するには一定量のウイルスが必要か：

A 一定量のウイルス量が必要、感染 10 日後の感染者からは感染しないとされている。

・感染のメカニズムの理解が難しく、感染防御を 100% にするにはどうしたらよいか：

A 一概には言及できない、飛沫感染以外にも接触感染もある。ソーシャルデスタンスは大切

・ファイザー開発のワクチンは従来と違う製法(mRNA)、緊急使用で不安はないのか：

A 高齢者は致死率が高いのでワクチンの効果に期待したい。若人への感染対策も大事だ。

・ワクチン効果は期待できるか、また食生活の生活習慣では対処できないか：

A 今回のワクチンはインフルエンザより効果が高い。食生活の改善は感染症予防に有効。

●次回(第 179 回)案内(会場参加+ZOOM 参加)

- ・日時：2021 年 2 月 19 日(金) 14 時 45 分~16 時 30 分、会場：横浜市青少年育成センター
- ・話題：「東日本大震災の教訓と地域の持続性」、講師：佐藤孝治氏(神奈川大学名誉教授)